

2

序章

1. 研究の目的

本稿では、2023 年度一橋大学鉄道研究会研究誌における、研究の目的を説明したい。巻頭挨拶でも述べたように、本年の研究のテーマは「帰ってきた観光と観光列車戦略」と決定された。研究誌の筆者の一人として、このテーマに沿って研究を行う目的を3点挙げたい。

まずは、新型コロナウイルス感染症による「コロナ禍」からの脱却に注目することである。現在の4年生が本学に入学した2020年4月、未知のウイルスCOVID-19が日本中を襲った。授業開始が延期、学内への入構禁止、課外活動の禁止など、思い描いていた大学生活のすべてが失われた。一時は東京でロックダウンが行われるのではないかという憶測も広まり、筆者自身も地元へと戻った。「移動」そのものが厳しい目で見られ、社会生活上必要な仕事でさえリモートでの実施を余儀なくされるなか、娯楽に過ぎない旅行や「観光」は当然のように自粛ムードが漂った。あれから3年と少し。徐々に日常が戻りつつあり、鉄道を使った旅行にも支障がほとんど無くなった。このタイミングで、列車の運行の一形態として、娯楽要素が強い観光列車に着目することは、研究として意義があるのではないかと考えた。

次に、運行される観光列車の多様化が挙げられる。ひとことで「観光」を目的とする列車といっても、いくつかの形態が考えられる。詳細はあとの頁に譲るが、速達性を重視した特急列車、SLのような珍しい車両を利用した列車、高級感を味わうための列車などがある。前者のような列車は「移動手段としての観光列車」¹といえ、人々のレジャー需要に应运えてきた。一方で、2010年代になって、「列車そのものを観光資源化する試み」¹が各社で行われるようになり、後者2つのような列車が各地で運行を開始した。コロナ禍により、その試みは中断を強いられたものの、感染症対策を行ったうえで観光列車の運行は再開され、需要も回復しつつある。そこで本年度の研究では、可能な限り異なるタイプの列車を取り上げ、車両の特徴や利用者の状況から、各社の観光列車の戦略に迫ろうとしている。

最後に、私たち一橋大学鉄道研究会の活性化である。新型コロナウイルス感染症による課外活動制限のもとでも、一定の部員数を保ちながら鉄研は存続してきた。しかしながら、サークルとしての活動には限界があり、過去と比較して活発であるとはとても言えなかった。昨年度までは、一つの大きなテーマに従い、各自が自らの小テーマを設定する形で研究を行った。今年度からさまざまな制限が緩和・撤廃されるなかで、部員が集って鉄道を楽しむ経験をしようという想いが生まれた。そこで「観光」のテーマのもと、実際に観光地に足を運び、利用者の年齢層や、各駅の乗降の程度を調査しつつ、部員間の親睦も深めることを中心に据えた。したがって、例年よりも事例研究が多くなっていることをご容赦いただきたい。

(4年 井上)

¹ 日本民営鉄道協会「鉄道用語事典 観光列車」※2023年11月6日最終閲覧
(<https://www.mintetsu.or.jp/knowledge/term/16351.html>)